

平成21年度に事後評価を行った評価結果（概要）について

1. 計画の指標の達成状況は次のとおりとなっている。

評価対象計画数	計画に掲げる指標をすべて達成した計画数	指標の達成が100%未満のものがあった計画数
10	5	5

2. 計画に掲げる指標をすべて達成した地区においては、本計画に取り組んだ効果として、次のような実績があった。

(1) 農村の振興

- ・地区内の住民への広報活動やアンケート調査等により事業実施（情報基盤施設の整備）への啓発や地域住民等からの意見集約を行い、加入促進への理解が深まった。
- ・情報基盤施設（ケーブルテレビ施設）を整備することにより、農業を中心とした地域情報の共有、利活用による農業の高度化が図られ、今後一層の地域の活性化が期待される。

(2) グリーン・ツーリズム都市農業の振興

- ・該当なし

(3) 農業生産基盤の整備

- ・客土の実施により土壌条件が改善され、様々な作物の栽培が可能となった。振興作物の栽培の推進等が可能となり、農業振興につながるものと期待される。
- ・農道の整備により、通作の利便性の向上及び営農の省力化が実現し、機能確保された農地や、大型車輛による耕作物輸送が可能な農地も目標値を達成した。また、幅員が広がったことで道路脇に農業機械を置きながら農作業が可能となり作業効率が向上した。

(4) 中山間地域等の振興

- ・該当なし

3. 指標の達成が100%未満のものがあった計画の達成状況は次のとおりとなっている。

評価対象計画数	指標の達成が100%未満のものがあった計画数	うち指標の達成が70%未満のものがあった計画数	うち指標の達成が50%未満のものがあった計画数
10	5	1	3

4. 指標の達成が未達成となった主な要因としては、次のような事例があった。

(1) 農村の振興

- ・地域資源を活かした加工品開発による活性化を目指し、研修や加工品の試作等を行い、出荷先の目処が立ったものの、生産拡大を目指していた農業参入法人の親会社（建設関連）が公共事業の削減により経営不振に陥り、倒産に至ったため計画どおりの作付けができなかった。引き続き、既存開発商品の販売拡大や新たな商品開発や栽培技術の向上により地域内外への原材料の出荷増をめざし、農家の意識高揚を図ると共に新規栽培農家の掘り起こしを図る。

(2) グリーン・ツーリズム都市農業の振興

- ・旅行代理店や JA と連携し、稲作体験等の農業体験にあわせて宿泊者の受け入れを計画していたが、台風等、天候不順により計画を断念せざるを得ない事態となるなど、団体での宿泊キャンセルが続き、目標を下回った。今後は、PR方法の見直し、天候に影響されにくい体験メニューの考案や受け入れ態勢の改善などにより、一層の地域の活性化を図られるものと期待される。

(3) 農業生産基盤の整備

- ・該当なし

(4) 中山間地域等の振興

- ・新技術の導入による商品の高付加価値化を図り、新たな生産体制や販売ルートを開拓したことで、一次産業従事者の収入の増加、雇用の創出に繋がり、経営の安定化が図られ、一次産業の自立に向けて一定の効果があった。しかしながら、燃料高騰による漁獲量の大幅な減少により原材料の確保が不十分となり、農林水産物処理加工施設による販売額目標値が未達成となった。しかし、こうした中でも、着実に知名度が上がってきており、原材料確保の工夫や新規販売ルートの獲得により生産量の増加が期待できるところである。

5. 指標の達成が未達成となった計画については、今年度指標が未達成となった要因等を分析するとともに、「改善計画」を作成し、農政局の指導のもと、県・市町村が連携し、指標達成に向け取り組んでいる。